

令和3年度

島根県公立高等学校  
入学者選抜の結果と分析

令和3年6月

島根県教育委員会

# 目 次

令和3年度島根県公立高等学校入学者選抜について・・・P 1

令和3年度学力検査の結果と分析

国 語・・・P 10～P 11

社 会・・・P 12～P 13

数 学・・・P 14～P 15

理 科・・・P 16～P 17

英 語・・・P 18～P 19

# 令和3年度島根県公立高等学校入学者選抜について

令和3年度島根県公立高等学校入学者選抜は「令和3年度島根県公立高等学校入学者選抜の基本方針について」及び「令和3年度島根県公立高等学校入学者選抜実施要綱」に基づいて、39校（全日制課程36校（分校含む）71学科 入学者定員4,976人，定時制課程3校8学科（部）入学者定員360人）で行われた。

今回は、一般選抜における第2志望校制度の廃止，志願変更の実施，学力検査内容の変更，全日制高校も含めた第2次募集の実施等，大きく制度変更をした5年目の入学者選抜であった。その概要は次のとおりである。

## 1 入学者選抜の基本方針について

### 令和3年度島根県公立高等学校入学者選抜の基本方針

島根県教育委員会

松江市教育委員会

#### 1 選抜全般について

- (1) 一般選抜，推薦選抜，スポーツ特別選抜，中高一貫教育校（連携型）特別選抜を実施する。
  - ア 一般選抜においては，出願後1回に限り志願変更を認める。
  - イ 一般選抜における合格発表の時点で，欠員が生じたすべての学校・学科において，第2次募集を実施する。
  - ウ 推薦選抜の募集人員は，体育科を除き当該学科の入学定員の40%程度までで各学校が定めることとする。
- (2) 県外から生徒募集を行う高等学校については，別に定める。
- (3) 松江市内，出雲市内にある県立高等学校全日制課程4校（松江北高校，松江南高校，松江東高校，出雲高校）の普通科については，地域外の合格者の割合を入学定員10%（出雲高校5%）以内に制限する。
- (4) 「県立高校魅力化ビジョン」で示されたとおり，松江市内の県立高等学校全日制課程3校（松江北高校，松江南高校，松江東高校）の普通科における通学区を撤廃する。
- (5) 通信制課程入学者選抜は，浜田高校において4月入学に加えて後期（10月）入学を実施する。
- (6) 帰国・外国人生徒等の特別措置において，学力検査の検査教科の一部を減ずること，受検時間の延長の他，学力検査問題へのルビ振りも申請できることとする。

#### 2 学力検査について

##### (1) 問題作成

- ア 学力検査問題は，島根県教育委員会及び松江市教育委員会において作成する。
- イ 学力検査問題の作成にあたっては，委員等の人選及び作業の過程について細心の注意を払うこととする。

##### (2) 出題方針

高等学校教育を受けるに足る資質と能力が正しく判定でき，かつ，中学校教育をゆがめ

ることなく、その充実に資することができるよう十分留意して、次の方針により出題する。  
ア 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標・内容に即して、問題の内容と程度を定める。

イ 単に知識や技能を問うのみでなく、知っていること・できることをどう使うかという観点で思考力、判断力、表現力等を問うことのできる問題を作成する。

### (3) 学力検査の実施

ア 実施教科

中学校の国語，社会，数学，理科，英語の5教科で実施する。

イ 実施期日

令和3年3月4日（木）

公立高等学校全日制課程，定時制課程について，一斉に実施する。

ウ 学力検査場

公立高等学校を学力検査場にあてるとともに，その管理は，各高等学校に設ける学力検査実施委員会が担当する。

受検者は出願先高等学校で受検する。ただし，特別な事情により最寄りの学力検査場で受検を希望する者については，最小限の特別措置を図ることとし，これについては別途指示する。

エ 実施時間・配点

実施時間は各教科50分とし，配点は1教科50点満点，合計250点とする。

### (4) 採点

採点場は，別に定める公立高等学校とし，採点者には採点場ごとに設ける学力検査実施委員会の委員をあてる。

### (5) 追検査

実施期日は令和3年3月9日（火）の1日とし、面接及び実技を実施する場合もこの日のうちに行う。なお、実施教科及び実施時間は本検査と同じとする。ただし、対象者は学力検査当日の特別措置によっても対応できず、やむを得ず欠席した者とする。

## 3. その他

この基本方針に定めるもののほか、必要な事項は、令和3年度島根県公立高等学校入学者選抜実施要綱で定める。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の状況によっては方針等を変更する場合がある。

## 2 推薦選抜，スポーツ特別選抜，中高一貫教育校（連携型）の特別選抜

入学願書の受付は，令和3年1月8日（金）から1月14日（木）12時までの間に行われ，令和3年1月26日（火）に合格内定が通知された。

### (1) 推薦入学者選抜（推薦選抜）

昭和57年度から実施している推薦入学者選抜（以下「推薦選抜」という。）は，今年度30校59学科（昨年度29校58学科）で募集し，29校58学科（昨年度29校57学科）で行った。

募集人員については平成17年度から「当該学科の入学定員の50%程度まで」としていたが、平成23年7月の島根県教育課程審議会答申「島根県立高等学校の入学者選抜方法の改善について」を受け、「体育科を除き当該学科の入学定員の40%程度までで各校が定めること」とした。その結果、表1に示す各高校・学科・募集人員で実施された。選抜にあたっては、中学校から推薦された者について調査票等を含めた書類審査及び面接等を行った。

この募集に対して本年度は851人（昨年度758人）の出願者があり761人（昨年度709人）が合格した。推薦選抜の制度は、一般の入学者選抜に比べ、特に学力検査では評価しがたい、その学校や学科にふさわしい多面的な能力・適性等を評価した選抜を行うところにその意義がある。各高等学校は、中学校と連携しながら、この制度の活用について検討してもらいたい。

表1 推薦選抜募集人員（%は入学定員に対する比率を示す）

推薦選抜募集人員	学 校 名 (学 科 名)	
60%	大社高校 (体育科)	
40%	情報科学高校 (全学科) 松江商業高校 (全学科) 出雲工業高校 (全学科) 出雲農林高校 (全学科) 江津工業高校 (全学科) 津和野高校 (普通科) 松江市立女子高校 (国際コミュニケーション科)	松江工業高校 (全学科) 松江農林高校 (全学科) 出雲商業高校 (全学科) 邇摩高校 (総合学科) 益田翔陽高校 (全学科) 隠岐島前高校 (普通科)
39%	島根中央高校 (普通科)	
35%	浜田商業高校 (全学科)	
30%	矢上高校 (全学科)	
25%	大東高校 (普通科) 江津高校 (普通科) 吉賀高校 (普通科)	平田高校 (普通科) 浜田水産高校 (全学科) 松江市立女子高校 (普通科)
20%	三刀屋高校 (総合学科) 隠岐高校 (普通科)	飯南高校 (普通科) 隠岐水産高校 (全学科)
15%	松江南高校 (探究科学科)	
13%	安来高校 (普通科)	
10%	松江東高校 (普通科) 大社高校 (普通科)	横田高校 (普通科) 隠岐高校 (商業科)

## (2) スポーツ推進指定校推薦入学者選抜（スポーツ特別選抜）

スポーツ推進指定校推薦入学者選抜（以下「スポーツ特別選抜」という。）は、体育系の部活動の活性化を図るとともに、優秀な選手を育成し競技力を向上させ、また県内におけるスポーツ活動を活性化して生涯スポーツの発展を図るため平成14年度から実施しているものである。令和3年度選抜より重点校の見直しに伴い、スポーツ特別選抜実施校及び実施競技も見直しがなされた。表2の指定競技・実施校において募集したところ、37人（昨年度34人）が出願し、37人（昨年度33人）が合格した。

表2 スポーツ特別選抜実施校及び指定競技

実施校	指定競技	
	男子	女子
安来高等学校	バレーボール フェンシング	バレーボール フェンシング
松江東高等学校	バスケットボール	ボート
松江工業高等学校	ソフトテニス	
松江商業高等学校		バスケットボール サッカー
横田高等学校	ホッケー	ホッケー
三刀屋高等学校	ソフトボール	
出雲高等学校	弓道	弓道
出雲農林高等学校	ウェイトリフティング カヌー	ウェイトリフティング カヌー
大社高等学校	陸上競技 剣道	陸上競技 剣道
島根中央高等学校	カヌー	カヌー
江津高等学校	水球	
江津工業高等学校	ボート	
隠岐島前高等学校	レスリング	レスリング

### (3) 中高一貫教育校（連携型）に係る入学者選抜（特別選抜）

中高一貫教育校（連携型）に係る入学者選抜（以下「特別選抜」という。）は、平成13年度に中高一貫教育を導入した飯南高校と吉賀高校で平成14年度入学者選抜から実施された。

飯南高校は頓原中学校又は赤来中学校，吉賀高校は柿木中学校，吉賀中学校又は六日市中学校に在籍する生徒を対象として，学力検査を用いない入学者選抜を実施し，飯南高校に18人（昨年度26人），吉賀高校に20人（昨年度32人）の出願があり，飯南高校18人（昨年度26人），吉賀高校20人（昨年度20人）が合格した。

## 3 一般選抜

### (1) 出願及び合格発表

入学願書の受付は，令和3年1月28日（木）から令和3年2月2日（火）12時までの間に行われた。

入学定員から推薦選抜等の合格内定者数を除いた一般選抜募集定員4,500人（全日制4,140人，定時制360人）に対して，3,863人（全日制3,756人，定時制107人）が出願した。

志願変更の受付は，令和2年2月9日（火）から令和2年2月16日（火）17時までの間に行われた。他の学校に志願変更した者は52人（昨年度53人），同一学校の他の学科に志願変更した者は18人（昨年度14人）であった。この結果，志願変更後の第1志望学科への出願状況は表3-1のとおりであった。

表 3 - 1 出願者の状況（志願変更後）

（ ）内は令和 2 年度選抜の数字

種別 課程	入学定員	推薦選抜等 合格内定者 (注 1)	一般選抜 募集定員 (注 2)	志願変更後		志願変更前
				一般選抜 出願者数	対募集定員 競争率(注 3)	一般選抜 出願者数
全日制	4,976	836	4,140	3,755	0.91	3,756
	(5,210)	(788)	(4,422)	(3,982)	(0.90)	(3,983)
定時制	360	—	360	108	0.30	107
	(360)	(—)	(360)	(142)	(0.39)	(141)
計	5,336	836	4,500	3,863	0.86	3,863
	(5,570)	(788)	(4,782)	(4,124)	(0.86)	(4,124)

注 1 推薦選抜、中高一貫教育校に係る特別選抜、スポーツ特別選抜の合格内定者の合計

注 2 入学定員から推薦選抜等合格内定者数を除いたもの

注 3 一般選抜出願者数を募集定員で割ったもの

合格発表は令和 3 年 3 月 12 日（金）各校のホームページ上で行われ（西部・隠岐 10 時，東部 10 時 30 分），推薦選抜等の合格内定者を含め，4,352 人（全日制 4,268 人，定時制 84 人）が合格した。

なお，第 2 次募集での合格者を含めると，最終的な合格者数は，表 3 - 2 に示すとおり 4,377 人（全日制 4,287 人，定時制 90 人）であった。

表 3 - 2 合格者の状況

（ ）内は令和 2 年度選抜の数字

種別 課程	合格者数			合格者 総数	合格者のうち		合格者のうち 地域外 対象人数
	推薦選抜等	一般選抜	第 2 次募集		県内	県外 海外	
全日制	836	3,432	19	4,287	4,064	223	58
	(788)	(3,633)	(35)	(4,456)	(4,267)	(189)	(74)
定時制	—	84	6	90	89	1	—
	—	(109)	(13)	(122)	(121)	(1)	—
計	836	3,516	25	4,377	4,153	224	58
	(788)	(3,742)	(48)	(4,578)	(4,388)	(190)	(74)

## （ 2 ） 選抜方法

「高等学校長は，入学志願者については，出身中学校等の校長から提出された個人調査報告書，学力検査成績，自己申告書等に基づいて，各高等学校，学科等の特色に配慮しつつ，その教育を受けるに足る能力・適性等を判定して選抜する」（入学者選抜実施要綱より）という入学者選抜の基本方針に基づいて選抜を行った。

個人調査報告書と学力検査の比率については，80:20，70:30，60:40，50:50 及び 40:60 の中から各高校が学科ごとに選択決定することとしている。今年度は 39 校（分校及び併設定時制を含む）のうち，70:30 が 1 校（昨年度 1 校），60:40 が 16 校（昨年度 16 校），50:50 が 15 校（昨年度 14 校），40:60 が 8 校（昨年度 9 校）であった（学科により比率が異なる学校あり）。

この比率に基づいて総点を算出するが，60:40 の場合，個人調査報告書の「学習の記録」を 51 点，「特別活動の記録」を 9 点の計 60 点に，さらに学力検査（1 教科 50 点満点，合計 250 点）の成績を 40 点に換算し，合計 100 点満点となるよう点数化する。

平成15年度から、学力検査後に面接及び実技検査を実施する場合には、各学校が10点を限度として総点に加え選抜の資料にすることができることとした。

### (3) 傾斜配点

「学校・学科の特色に応じた学力をみるために、学力検査の特定の教科の得点を重くみる傾斜配点」（入学者選抜実施要綱より）は昭和62年度から導入しているが、今年度実施した学校はなかった。

### (4) 受検状況

令和3年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査は、令和3年3月4日（木）県内37会場において、国語、数学、社会、英語、理科の順に各教科50分、1教科50点満点、合計250点で行った。

今年度の一般選抜の受検者数は3,648人、辞退者数等は出願者の5.6%に当たる215人であった。辞退等の理由は表4に示したとおりであるが、本年度も高専合格や私立高校合格のため受検を辞退した者が大半を占めている。

表4 欠席者数と欠席理由

( )内は令和2年度選抜の数字

種別 課程	欠席者数	欠 席 理 由					
		病 気	松 江 高 専 合 格 者	県 内 私 立 合 格 者	県 外 高 校 等 合 格 者	就 職	そ の 他
全日制	197 (196)	3 (2)	110 (105)	61 (51)	22 (36)	0 (0)	1 (2)
定時制	18 (23)	3 (0)	0 (0)	8 (15)	1 (1)	0 (0)	6 (7)
計	215 (219)	6 (2)	110 (105)	69 (66)	23 (37)	0 (0)	7 (9)

※追検査の対象となる欠席者はなし（コロナウイルス感染症等に関わる欠席者もなし）

### (5) 第2次募集

令和3年3月12日（金）の合格発表の時点で、入学定員に欠員がある全日制課程及び定時制課程の各学校・学科で第2次募集を実施した。令和3年3月19日（金）に、個人調査報告書、一般選抜学力検査の結果、作文、面接結果等の資料を基にして総合的に選抜を行い、32人（昨年度57人）が受検し25人（昨年度48人）が合格した。

## 4 学 力 検 査

### (1) 出題方針

学力検査問題の作成にあたっては、中学校学習指導要領に示されている各教科の目標に沿って、平素の学習で積み上げられた受検者の学力が十分に判定できるように、問題内容を精選して出題した。出題形式は、単なる知識の検査にならないように、思考力、判断力、表現力等をみるために記述式、論述式の問題を出題した。また、身近なものを題材とした問題作成に努めた。放送による聞き取りの問題については、英語において実施した。

県内中学校・高校の各教科を担当する教員を対象とした学力検査に対する意識調査（学力検査の難易度及び分量について）の結果は表5のとおりであった。



## (2) 得点状況

学力検査の得点状況は、表6-1、6-2に示すとおりであった。5教科総合の平均点は143.5点で昨年度より22.7点高かった。教科別の平均点は、国語が35.5点（昨年度より+6.4点）、社会が29.2点（昨年度より+3.9点）、数学が24.9点（昨年度より+0.8点）、理科が29.1点（昨年度より+6.5点）、英語が24.8点（昨年度より+4.9点）であった。表6-3は得点の分布状況をグラフに示したものである。

10ページ以降では、各高校で全受検者の約1割を抽出して行った調査に基づき、教科別に分析結果を示す。

表5 各教科を担当する教員の学力検査に対する意識調査結果  
(中学校 100校 高校 39校)

(単位：%)

教科	校種	内容の程度			問題の分量		
		もっと下げる	ほぼ適当	もっと上げる	多い	ほぼ適当	少ない
国語	中学校	0.0	75.0	25.0	0.0	98.0	2.0
	高校	2.5	59.0	38.5	2.6	97.4	0.0
社会	中学校	2.0	86.9	11.1	4.0	96.0	0.0
	高校	2.6	92.3	5.1	15.4	84.6	0.0
数学	中学校	1.0	76.8	22.2	7.1	91.9	1.0
	高校	2.6	92.3	5.1	0.0	100.0	0.0
理科	中学校	0.0	70.0	30.0	0.0	97.0	3.0
	高校	0.0	89.7	10.3	0.0	94.9	5.1
英語	中学校	8.1	89.9	2.0	19.2	80.8	0.0
	高校	10.3	87.2	2.5	7.7	92.3	0.0

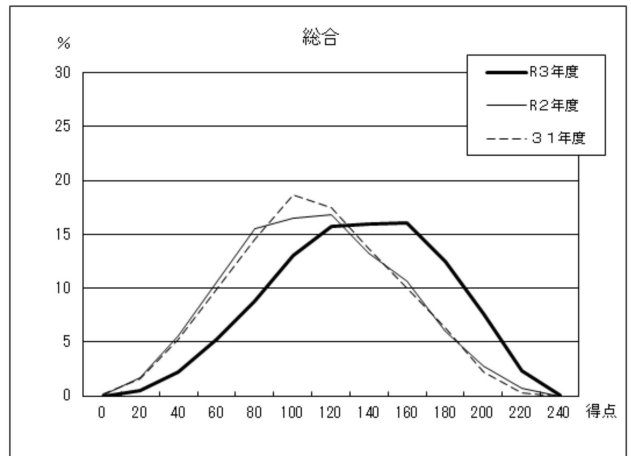
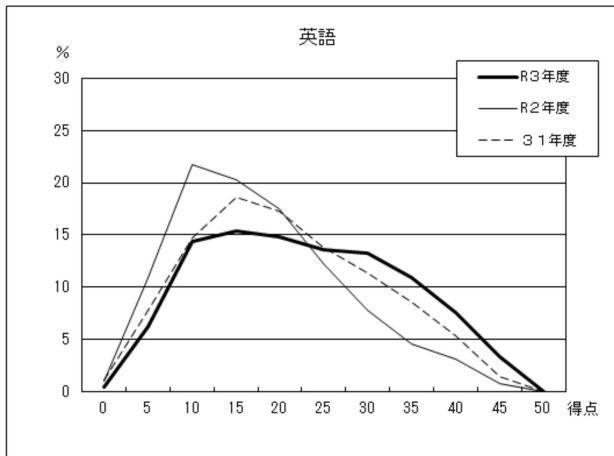
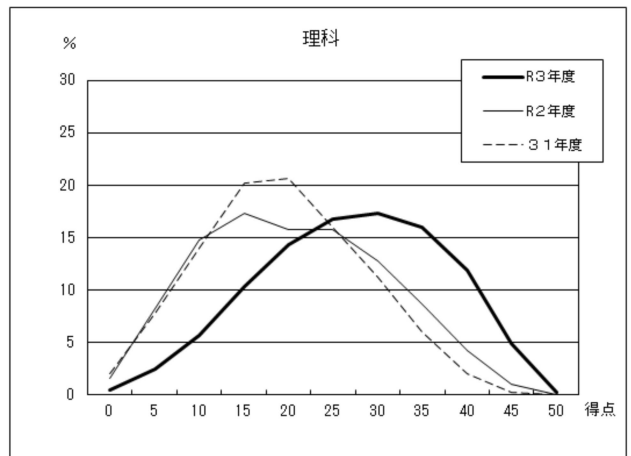
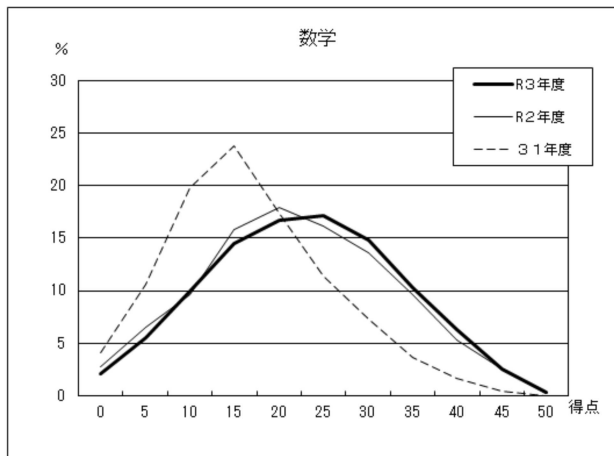
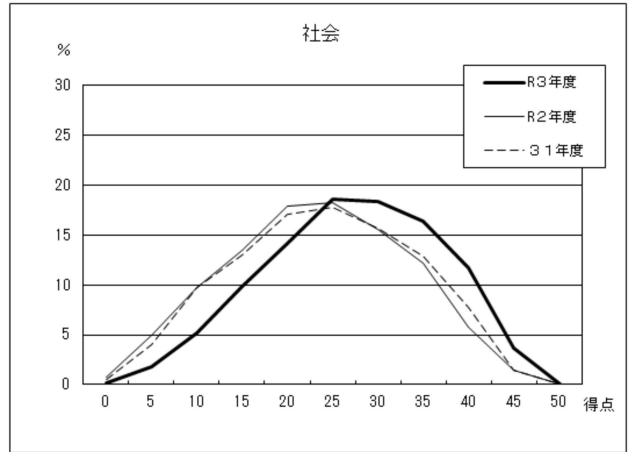
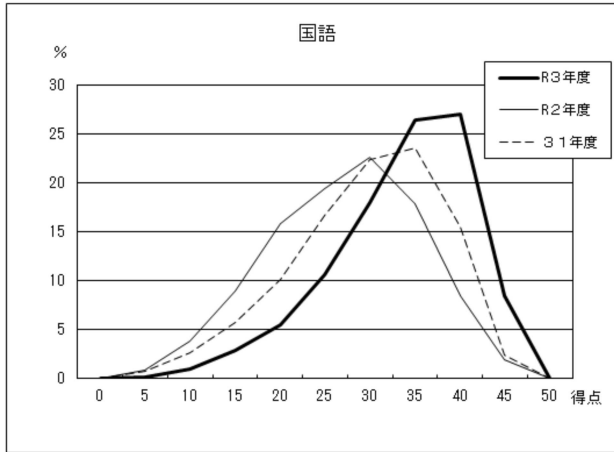
表6-1 平均点・標準偏差・最高点・最低点

項目	平均点	標準	最高点	最低点	項目	平均点	最高点	最低点
教科	令和3年度	偏差			教科	令和2年度		
国語	35.5	7.6	50	4	国語	29.1	50	2
社会	29.2	9.4	50	0	社会	25.3	48	0
数学	24.9	10.4	50	0	数学	24.1	50	0
理科	29.1	10.1	50	0	理科	22.6	50	0
英語	24.8	10.9	50	0	英語	19.9	49	2
総得点	143.5	42.8	242	22	総得点	120.8	234	6

表 6 - 2 総得点分布

得 点	令和3年度	令和2年度
220点以上	85	26
200～219	279	108
180～199	455	235
160～179	586	417
140～159	583	517
120～139	571	656
100～119	473	645
80～ 99	320	604
60～ 79	195	411
60点未満	101	286
計	3,648	3,905

表 6 - 3 得点の相対度数分布



**正確に読み取ったことを適切に説明する力、説得力のある文章を書く力の育成を****1 出題のねらい**

出題にあたっては、公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき、思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「国語」の出題にあたっては、中学校学習指導要領「国語」に示されている、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと及び伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の3領域1事項に沿って、国語を正確に理解し、適切に表現するための基礎的・基本的な力をみることをねらいとした。

**【第一問題】**

漢字の読み・書きの問題、書写に関する問題、文法に関する問題、歴史的仮名遣いに関する問題のそれぞれについて、基礎的な力をみる。

**【第二問題】**

説明的な文章を素材とする問題である。論理の構成や展開を理解し、筆者の主張やその根拠を正確にとらえる力をみる。また、文章に表れているものの見方や考え方を、関連する文章を参考にして理解し、適切に表現する力をみる。

**【第三問題】**

文学的な文章を素材とする問題である。登場人物等の描写に注意して読み、登場人物の言動の意味や心情を的確にとらえ、適切に表現する力をみる。また、場面や登場人物の設定の仕方をとらえる力をみる。

**【第四問題】**

古典（古文）を素材とする問題である。古典の内容を的確にとらえる力をみる。また、要旨をとらえて、現代に受け継がれてきた言語文化と関連付ける力をみる。

**【第五問題】**

テーマに基づいて生徒たちが話し合いを行う場面を想定した問題である。事実と意見との関係に注意して話す力や、話し合いの話題や方向をとらえて的確に進行するために必要な力をみる。また、伝えたい事柄について、自分の考えをまとめ、体験を根拠にした説得力のある文章を書く力をみる。

**2 総括**

平均点は35.5点で、昨年度の29.1点より上昇し、過去5年間の中では最も高かった。難易度を上げることが望む声は中学校で25%、高校で38.5%あった。今年度も第一問題に基礎的・基本的な知識を問う問題を集め、大問題の構成も昨年度と同様にした。漢字の読み・書写・古典の知識を問う問題は正答率が高く、基礎的・基本的な力は身に付いていることがうかがえた。第二問題、第三問題の読む力を問う問題では、短答式や選択式では正答率が高かったが、記述式では、文章を正確に理解してポイントを読み取ることや、必要な要素を入れて適切に説明することができずに減点となった解答が多かった。第四問題でも、選択式では正答率が高かったが、文章の主語をとらえる問題や、文章の内容を説明する問題では正答率が50%を下回り、古文を正しく読み取る力や、説明する力に課題がみられた。第五問題では、話し合いの方向性をとらえる力や的確に進行するための基礎的な力を問う問題は正答率が高かったが、作文は、自分の考えの裏付けの説明が不十分なため減点となった解答が多かった。文章の内容を正確にとらえ、問われたことに対して適切に説明する力や、自分の考えの根拠を適切に説明した、説得力のある文章を書く力の育成を期待したい。

### 3 特徴的な問題の結果分析

#### 【第五問題】問三

【第五問題】  
令和中学校の保健委員会では、「校内の掃除」について全校生徒にアンケートを取りました。次は、その結果について各クラスの保健委員が話し合いをしている様子と、話し合いの後に作成した標語案です。下の問一～問三に答えなさい。

【話し合いの様子】

アヤカ 今日私は私が司会をします。よろしくお願いします。この時間は、アンケートで出た意見について話し合い、校内の掃除について全校生徒に呼びかける標語を考えます。アンケートでは、主に次の六つの意見が出ました。

**アンケートで出た主な意見**

- ・ 掃除用具が足りない
- ・ 取りかかりが遅い
- ・ 掃除時間に音楽をかけてほしい
- ・ 掃除場所の広さに対して班員が少ない
- ・ まじめに取り組んでいない
- ・ゴミ箱の数を増やしてほしい

ハルト 私は、全校生徒の掃除に対する意識が変わるような呼びかけがよいと思います。

ソウマ 私もそう思います。アンケートで出た **I** という二つの意見から、掃除に対して意識の低い人がいるのが気になりました。だから、全校のみんなが十五分間の掃除にしっかり取り組むような呼びかけにはどうですか。

アヤカ 確かに、そうですね。他の意見はありますか。

メイ はい。「掃除時間に音楽をかけてほしい」という意見があるので、音楽をかけませんか。

ハルト それなら校歌がよいと思います。

ソウマ 校歌より、みんなが好きな音楽をかけた方がやる気が出ると思います。

メイ だったら、かけてほしい音楽のアンケートを取りましょうよ。

アヤカ **II**

ソウマ そうでしたね。話を戻しましょう。

(話し合いは続く……)

【標語案】

A あと3分!!  
時間いっぱい  
もっときれいに!

B 一人でやらなくて  
いいんだよ、  
私もやるから

C きれいだね  
気持ちいいな  
君のおかげ

問三 あなたなら【標語案】A～Cの中で、どれがよいと思いますか。次の①～④の条件に従って作文しなさい。

- ① 【標語案】A～Cの中からどれか一つを選び、あなたがどれを選んだかが分かるように、文章中に記号を書くこと。
- ② 他の二つの【標語案】と比べて書くのではなく、あなたが選んだ【標語案】のよさについて書くこと。
- ③ あなたの自身の体験を根拠として【標語案】のよさを書くこと。
- ④ 百五十文字以上、百八十文字以内でまとめること。句読点や記号も一字として数える。ただし、一マス目から書き始め、段落は設けない。

※あなたの学校のこととして書いてもよいし、令和中学校のこととして書いてもよい。

※読み返して文章の一部を直したいときは、二本線で消したり、余白に書き加えたりしてもよい。

**正解答(例)**

私はAがよいと考える。自分自身を振り返ってみても、自分の分担の仕事が終わったら、時間が残っていても終わってしまうことがある。よく見ていないだけで、まだ汚れているところはあるだろう。Aは、私のように早めに終わっていた人たちが、他にもきれいにできる所はないかと気にかけて、時間いっぱい掃除をしようという気になるので、よい標語だと考える。

第五問題は昨年度と同じように、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の二領域にわたって思考力・判断力・表現力等を問う問題である。問三の出題のねらいは、「伝えたい事柄について、自分の考えをまとめ、体験を根拠にした説得力のある文章を書く力をみる」であった。中学校学習指導要領の第3学年「書くこと」の目標に、「論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせる」とある。「論理の展開を工夫して書く能力」とは、書き手の考えが説得力をもって伝わるように、材料の選び方や文章全体の構成、記述の仕方等を工夫して書く能力のことである。今回は、自分の選んだ標語案のよさを、体験を根拠として書くことでその力をみた。出題意図を明確にするために、標語案のよさについて書くこと、自分自身の体験を根拠とすることという二つの条件を明示した。

無答率は3.6%と低く、書こうとする努力はみられたが、正答率は10%未満にとどまり(9.4%)、自分の選んだ標語案のよさを明確に説明できていない解答や、選んだ標語案のよさを裏付ける体験の説明が不十分な解答が多くみられた。また、文章全体の内容に一貫性を欠く解答も多く、自分の考えを説得力をもって書く力に課題があることがうかがえた。自分の意見を述べ、それを裏付ける事実を示して正当性・妥当性へと結び付ける書き方等、基本的な論理展開の組み立て方を身に付け、論理の展開を工夫して表現する力を育成する学習が期待される。

## 社会科

### 基礎的・基本的知識の確実な定着と思考力・判断力・表現力等の一層の育成を

#### 1 出題のねらい

出題にあたっては、公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき、思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「社会」の出題にあたっては、中学校学習指導要領「社会」に示されている、地理的分野、歴史的分野及び公民的分野について、地図、統計及び史料など各種の資料から必要な情報を読み取り、多面的・多角的に考察して公正に判断し、適切に表現する力、及び公民としての基礎的教養が身に付いているかをみることをねらいとした。また、島根県で実施している「ふるさと教育」を踏まえ、島根県に関する事項についても出題した。

##### 【第1問題】

地理的分野、歴史的分野、公民的分野の3分野における基礎的・基本的事項の定着をみる。また、社会的事象について、3分野で学習した内容を関連付けながら思考・判断し、適切に表現する力をみる。

##### 【第2問題】

歴史的分野における基礎的・基本的事項の定着をみる。また、我が国の歴史の大きな流れや各時代の特色、世界とのつながりについての理解と、諸資料をもとにして様々な歴史的事象を多面的・多角的に考察して公正に判断し、適切に表現する力をみる。

##### 【第3問題】

地理的分野における基礎的・基本的事項の定着をみる。また、地図や各種統計資料を的確に読み取る技能と、読み取った内容を地理的な見方や考え方に基づいて多面的・多角的に考察して公正に判断し、適切に表現する力をみる。

##### 【第4問題】

公民的分野における基礎的・基本的事項の定着をみる。また、民主主義や現代の社会生活についての理解と、諸資料をもとに現代の社会的事象を多面的・多角的に考察して公正に判断し、適切に表現する力をみる。

#### 2 総括

例年と同じく、様々な資料を読み取り、思考・判断したことを決められた字数内で表現する力をみる問題を多く出題したが、全体として昨年度より無答率は低く、粘り強く取り組もうとする姿勢がみられた。一方、問題文で問われていることを的確にとらえ、資料を読み取った上で思考・判断・表現する問題では、資料の読み取りにとどまり、あいまいな知識をもとに表現した解答も見受けられた。

平均点は29.2点で、昨年度と比べて3.9点上昇した。正答率30%未満の問題数や無答の問題数が減少し、歴史的分野と地理的分野の正答率が大きく上昇したことなどが要因と考えられる。問題の分量については、「多い」「ほぼ適当」「少ない」という意見の割合が中学校・高校ともに昨年度とほぼ同じであったが、問題の程度については、中学校が「もっと下げる」という意見が減って「もっと上げる」が多くなったのに対し、高校は「もっと下げる」という意見が減って「ほぼ適当」が多くなった。これらの結果から、今回の問題で問われた基本的な知識や思考力・判断力・表現力等は、中学校の学習によって定着してきたと考えられるが、高校の教員より中学校の教員の方が、もう少し難易度の高い問題が出題されることを求めている傾向があることがうかがえた。

### 3 特徴的な問題の結果分析

#### 【第2問題】問1の4

4 次の文は、ある生徒が豊臣秀吉の政策について、下の資料②、表①から考察したものである。文中の **A**、**B** に適する内容を、それぞれ20字以内で答えなさい。

#### ある生徒の考察

資料②の命令は、徹底されなかったのではないかと、それは、表①から、**A** が読み取れるからである。命令が徹底されなかった原因としては、資料②の内容から、バテレン（宣教師）に帰国を命じる一方で **B** が考えられる。

#### 資料② 豊臣秀吉が1587年に出した命令

- 一、日本は神国であるから、キリシタンの国より悪い教えを伝え広められるのは、ひじょうによろしくないことである。
  - 一、…バテレン（宣教師）を日本に滞在させることはできない。今日から20日の間に用意をして、帰国せよ。
  - 一、ポルトガル船については、商売のために来ているので、バテレン追放とは別である。今後とも長い年月にわたっていろいろと売買するようにしなさい。
- （一部要約し、読みやすく改められている）

表① 日本のキリシタンの  
おおよその数

1579年	130000人
1587年	200000人
1592年	217500人
1601年	300000人

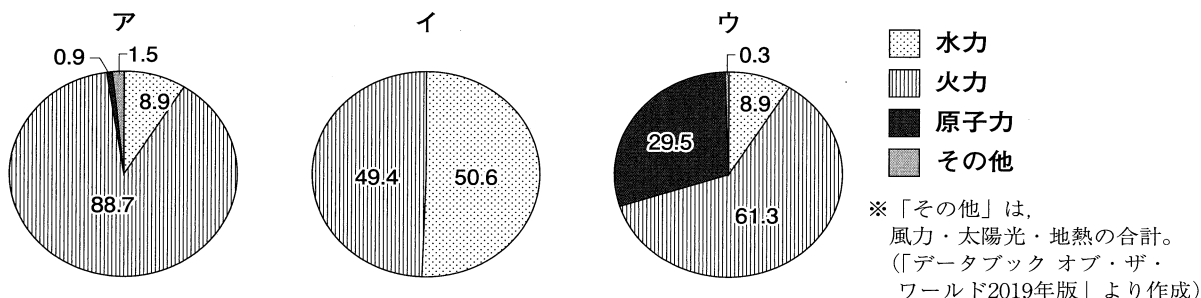
（五野井隆史「日本キリスト教史」より作成）

正解答(例) A 命令後もキリシタンの数が増加している (18字)  
B ポルトガルとの貿易を禁止しなかった (17字)

秀吉が発した「バテレン追放令」の文章やキリシタン数の推移を示す資料をもとに、資料から読み取ることのできる内容や追放令が徹底されなかった原因について、思考・判断する力を問う意図で出題した。「ある生徒の考察」の文章をそれぞれの資料について記述することにより資料を読み取る視点に気付くことや、空欄の内容を考えることによって生徒の思考が進みやすくなることも期待した。解答には字数制限があるため、資料から読み取ったことを空欄に適するようにまとめる表現力も問う問題だった。正答率はAが83.4%、Bが48.8%であった。

#### 【第3問題】問1の2

2 次のグラフは、1960年・2000年・2015年のいずれかにおける、日本の総発電量に占める各発電形態の割合(%)を示している。ア～ウを年代順に並べて、記号で答えなさい。



正解答 イ → ウ → ア

日本の総発電量に占める各発電形態の割合を示す3つの円グラフを、高度経済成長や京都議定書、東日本大震災後の原子力政策などの知識をもとにして年代順に並べられるよう思考・判断する力を問う意図で出題した。その上で、現代社会での課題と既習の内容とを結び付け、日本の環境政策が今後どのような方向で進められていくべきかなどについても考えを広げ、「効率と公正」などの現代社会をとらえる見方や考え方に気付くことも期待した。正答率は51.4%であった。

## 数学科

### 知識の概念的な理解と、情報を正確に読み取り数学的に活用していく力の育成を

#### 1 出題のねらい

出題にあたっては、公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき、思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「数学」の出題にあたっては、中学校学習指導要領「数学」に示されている、数と式、図形、関数、資料の活用に関する基礎的・基本的な事項についての知識・技能の定着をみることをねらいとした。また、目的に応じて課題を解決することを通して、数学的な見方や考え方をみることをねらいとした。

##### 【第1問題】

数と式、図形、関数、資料の活用（確率）の各領域におけるさまざまな内容についての基礎的な知識の理解や技能の定着をみる。

##### 【第2問題】

資料の活用について、平均値、中央値など基本的な事項の定着をみる。また、二つの資料を考察し、条件に合致するように論理的に処理する力をみる。さらに、規則的に並ぶ整数の特徴を正確にとらえ、成り立つ性質を文字を用い一般化して論理的に表現する力と、その性質を利用する力をみる。

##### 【第3問題】

身近な事柄を題材にして、情報を的確にとらえ、グラフから変化の様子を読み取り、直線の式などを求める技能の定着をみる。また、一次関数のグラフを利用して課題を解決する力をみる。

##### 【第4問題】

一次関数や関数  $y=ax^2$  のグラフから変域や座標を求めるなど基本的な知識や技能の定着をみる。また、平面図形との関連を用いながら三角形の面積を計算するなど、様々な見方・考え方で図形を考察する力をみる。

##### 【第5問題】

平面図形の性質について、三平方の定理の活用、作図など基本的な事項についての知識や技能の定着をみる。また、三角形の相似や三平方の定理の証明を通して、様々な図形の見方・考え方や論理的に考察する力をみる。

#### 2 総括

平均点は 24.9 点で、昨年度よりも 0.8 点ほど上昇した。得点分布については、昨年度と比較して 0 点～ 20 点の層が微減、20 点～ 40 点の層が微増した。内容の程度については「ほぼ適当」と回答した中学校が 76.8 %（昨年度 79.0 %）、高校が 92.3 %（昨年度 97.4 %）と昨年度を若干下回ったが、問題の分量については「ほぼ適当」と回答した中学校が 91.9 %（昨年度 85.9 %）、高校 100.0 %（昨年度 79.5 %）となり昨年度を上回った。

基本的な知識を問う問題や計算技能をみる問題については正答率が高く、基礎的・基本的な事項の定着がうかがえる。一方で、用語の意味について曖昧なとらえ方をしている解答も多く見受けられる。文章やグラフから必要な情報を読み取り、活用していくことが必要な問題についての正答率は低かった。文章を正しく読み取った上で式による表現をしていくことや、式やグラフの表す意味を理解して活用していくことに課題がみられる。情報を整理して数学的に考察し表現する力、身に付けた知識・技能を解決に活用する力の育成が望まれる。



### 3 特徴的な問題の結果分析

#### 【第2問題】問1の3

【第2問題】 次の問1、問2に答えなさい。

問1 1班と2班のそれぞれ10人に対してテストを実施したところ、点数が表のようになった。ただし、点数は条件1を満たす。下の1～3に答えなさい。

表 テストの点数(点)

1班	2	4	1	3	1	1	10	8	6	4
2班	1	3	10	2	6	5	$a$	2	$a$	3

条件1

- ・点数は0点以上、10点以下の整数である。
- ・表中の $a$ は同じ点数である。
- ・2班10人の点数の平均値は5.0点である。

3 次の条件2を満たすように、1班の $x$ 点の生徒1人と2班の $y$ 点の生徒1人を入れかえた。このとき、 $x$ 、 $y$ の値を求めなさい。

条件2

- ・1班10人の点数の平均値と2班10人の点数の平均値を等しくする。
- ・1班10人の点数の中央値を、生徒を入れかえる前より大きくする。

正解答  $x=1, y=6$

この問題は、複数の条件のうち、特定の条件を満たすいくつかの候補を考え、そのそれぞれについて実際に代表値を考えることで正解を導き出していく問題である。条件2に合致するように表の数値を考察し、論理的に処理する力を問う意図で出題した。正答率は14.0%、無答率は46.6%であった。

条件2を満たす候補を挙げ吟味していくなど、問題を解決するための見通しを立てる力が必要となる。

知識や技能を身に付けて終わるのではなく、身に付ける過程を通して数学的な見方・考え方を働かせる数学的活動の充実を図ることが重要である。

#### 【第3問題】問4の2

【第3問題】 A中学校とB中学校には吹奏楽部があり、それぞれの中学校では毎月、活動費を支給する。ただし、中学校によって活動費の決め方は異なり、その決め方をまとめたものが、次の表である。

表

	基本支給額	部員数によって決まる支給額(部員1人あたり)
A中学校	$\text{ア}$ 円	$\text{イ}$ 円
B中学校	1000円	20人までは200円、20人を超えてからは50円

活動費は、基本支給額と部員数によって決まる支給額の合計であり、基本支給額は、部員数が0人であっても必ず支給される。

例えば、B中学校については、ある月の部員数が100人のとき、基本支給額が1000円であり、部員数によって決まる支給額は20人までは1人あたり200円で、残りの80人は1人あたり50円である。したがって、その月の活動費を求める式は、

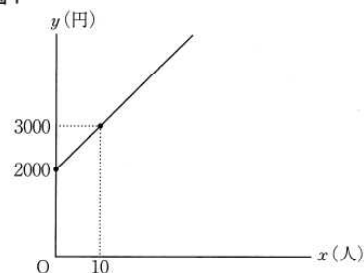
$$1000 + 200 \times 20 + 50 \times 80$$

であり、これを計算すると、活動費は9000円になる。

活動費と部員数の関係を一次関数を用いて考える。

図1は、A中学校の吹奏楽部の部員数を $x$ 人、活動費を $y$ 円としたときの $x$ と $y$ の関係をグラフで表したものである。下の問1～問4に答えなさい。

図1



問4 A中学校とB中学校の吹奏楽部について、次の1、2に答えなさい。

2 活動費が等しく、部員数の差が20人となるとき活動費を求めなさい。

正解答 8000円

この問題は、人数によって関数に変化するような条件を設定し、様々な場面を想定して的確に処理していく問題である。身近な事柄について考察し、一次関数の式やグラフを利用して課題を解決する力を問う意図で出題した。正答率は15.4%、無答率は56.0%であった。

問題の解決に向けてどのようにグラフが活用できるかなど、数学的に処理する力が必要となる。物事の特徴や本質をとらえる視点、思考の進め方や方向性を考える力を育むために、学習の過程を振り返るなど統合的・発展的に考察し、概念を形成していく学習を充実させることが重要である。

## 理科

### 基礎的・基本的知識を活用させる，科学的思考力と論理的説明力の育成を

#### 1 出題のねらい

出題にあたっては，公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき，思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「理科」の出題にあたっては，中学校学習指導要領「理科」に示されている，第1分野，第2分野の基礎的・基本的な事項について，知識・理解及び技能の定着をみるとともに，自然の事物・現象について，興味・関心をもって探究し，資料や観察・実験の結果を科学的に分析し，読み取る力や思考する力，表現する力をみることをねらいとした。

##### 【第1問題】

科学的に探究するために必要な各領域の基本的な知識・理解の定着をみる。また，自然の事物・現象に対して，各領域を横断した知識・理解の定着をみる。

##### 【第2問題】

第2分野（生物領域）における，生物の成長と生殖方法について，身近な生物の観察や具体的な事象を通して基本的な知識・理解の定着をみる。また，観察結果をもとにして科学的に思考する力や表現する力をみる。

##### 【第3問題】

第1分野（化学領域）における，化学変化と原子・分子に関する内容について，実験を通して基本的な知識・理解の定着をみる。また，実験結果をもとにして科学的に思考する力や表現する力をみる。

##### 【第4問題】

第1分野（物理領域）における，凸レンズの働き，浮力に関する内容について，観察・実験を通して基本的な知識・理解の定着をみる。また，実験結果をもとにして科学的に思考する力や表現する力をみる。

##### 【第5問題】

第2分野（地学領域）における，気象とその変化に関する内容について，基本的な知識・理解の定着をみる。また，気象観測の結果や資料を分析して科学的に思考する力や表現する力をみる。

#### 2 総括

平均点は29.1点で，昨年度の22.6点から大きく上昇した。内容の程度について「ほぼ適当」と回答した中学校は70.0%（昨年度89.0%）に対して高校は89.7%（昨年度89.7%），「もっと上げる」と回答した中学校は30.0%（昨年度5.0%）に対して高校は10.3%（昨年度0.0%）だった。また，問題の分量について「ほぼ適当」と回答した中学校は97.0%（昨年度96.0%）に対して高校は94.9%（昨年度87.2%）だった。全般的に基礎的・基本的な知識を問う問題の正答率はとても高かった。無答率も例年と比べてとても低かった。一方で，計算や作図など，思考力・判断力・表現力等を必要とする問題の正答率は低かった。自然の事物・現象について主体的に探究し，基本的なことを正確に理解するとともに，文章やデータなどを読み取る力や，観察・実験の結果・考察を文章や作図などで正確に表現する力，実生活や他教科で身に付けた知識・技能を活用する力の育成を期待する。

### 3 特徴的な問題の結果分析

【第5問題】問2の1, 2

問2 ヤクモさんは、雲のでき方に興味をもち、雲ができる条件について調べることにした。仮説1と仮説2を設定し、実験の計画を立てた。図2は、実験に用いる装置である。これについて、下の1～4に答えなさい。

仮説1 地上の水蒸気量が多くなれば、雲ができやすくなるのではないか。

仮説2 地上と上空の気温差が大きくなれば、雲ができやすくなるのではないか。

#### 実験

計画1 図2のように、透明な筒の下部と上部に金属の容器を設置した5つの装置A～Eをつくる。

計画2 装置A～Eの下部と上部の金属の容器には、表2のように氷水（5℃）、常温の水（25℃）、加熱した水（45℃）、加熱した石（45℃）のうちのいずれかを入れる。

図2

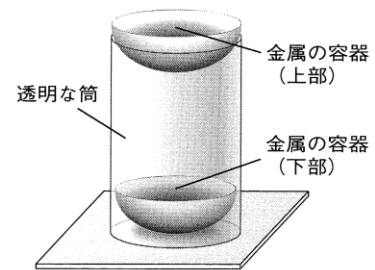


表2

装置	金属の容器（下部）	金属の容器（上部）
A	加熱した水（45℃）	氷水（5℃）
B	加熱した水（45℃）	常温の水（25℃）
C	加熱した石（45℃）	氷水（5℃）
D	加熱した石（45℃）	常温の水（25℃）
E	加熱した石（45℃）	加熱した水（45℃）

計画3 金属の容器（上部）のまわりにできる水滴のようすを観察する。このとき、一定の時間に水滴が多くできていれば「雲ができやすい」と判断する。

1 仮説1について調べるには、装置Aとどれを比較すればよいか。最も適当な装置を表2のB～Eから一つ選び、記号で答えなさい。

2 仮説2について調べるには、装置Aとどれを比較すればよいか。最も適当な装置を表2のB～Eから一つ選び、記号で答えなさい。

正解答 1 : C

2 : B

この問題は、仮説を検証するための実験を、条件を制御して計画することができる力を問う意図で出題した。作問する上では、理解力と思考力をはかれるような選択肢となるように工夫した。

4つの選択肢から最も適当なものを一つずつ選ぶ選択問題ではあったが、正答率は45.1%、37.8%と低かった。

このような科学的に探究する力を高めるためには、自然の事物・現象の中に問題を見だし、解決する方法を立案するなど、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈するなどの活動を行うことが有効である。

## 目的や場面、状況を設定し、複数の技能を統合した言語活動の充実を

### 1 出題のねらい

出題にあたっては、公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき、思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「英語」の出題にあたっては、中学校学習指導要領「外国語」に示されている、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーションを図るために必要な基礎的・基本的知識の理解や運用能力等をみることをねらいとした。また、複数の技能を統合させながら、習得した知識を活用して表現する力をみる問題を出題した。

#### 【第1問題】

はっきりとした口調で話される英語を聞いて、使用場面を意識しながら、具体的な内容や必要な情報を聞き取る力をみる。また、聞くことと書くことの技能を統合させながら活用する力をみる。

#### 【第2問題】

資料から必要な情報を読み取る力をみる。また、読み取った情報をもとに計算を行って答えを導き出すといった教科横断的に考察する力をみる。

#### 【第3問題】

会話の流れを読み取って、前後の内容から適する語句を判断したり英文の意味を推測したりする力をみる。また、英文全体を通して書き手が何を言おうとしているのかを理解する力をみる。

#### 【第4問題】

まとまりのある英文を読んで、概要や要点を正しく読み取る力をみる。また、読むことと書くことの技能を統合し、読んだ内容をふまえて適切に英語で表現する力をみる。

#### 【第5問題】

場面や状況に応じて、ふさわしい語句や表現を使って英文を書く力、適切な語順の英文を構成する力をみる。また、与えられたテーマに関して、他者の意見を読んで自分の考えを整理し、理由を明確にしたうえで、文と文のつながりを意識して流れが一貫した英文を書く力をみる。

### 2 総括

平均点は24.8点で、昨年度より4.9点上昇し、過去5年間の中では最も高いものとなった。得点分布状況を見ると、標準偏差は10.9と5教科中最も大きい値であり、平均点付近に山のない、なだらかな分布であった。中学校段階での英語についての学力差が大きいことがうかがえる。昨年度からリスニングで一度しか音声を流さない部分を導入し、その点には受検生の対応もはやかったが、思考力・判断力・表現力等を問う問題には依然としてうまく対応しきれていないように思われる。

受検生の学力を詳しくみると、解答と直結する表現を聞き取ったり情報を読み取ったりする問題では正答率が高く、英語の基礎的な知識・技能の定着は進んでいると思われる。一方、様々な場面で英語を使うことを想定した問題が多かったため、授業での幅広い言語活動に苦手意識を持つ受検生にとっては、時間内に的確な解答を作ることが難しかったと思われる。特に「聞くこと」においては、複数の情報を整理して解答を導く力に、「読むこと」においては、まとまりのある英文の内容を深く理解する力に課題がみられた。また「書くこと」においては、条件に合わない解答が多く、無答率も高かった。場面や状況に応じた英文が思い浮かばず、自分なりのまとまった考えを表現する力（発想力や想像力等を含む）が十分に育成されていない実態がうかがえた。

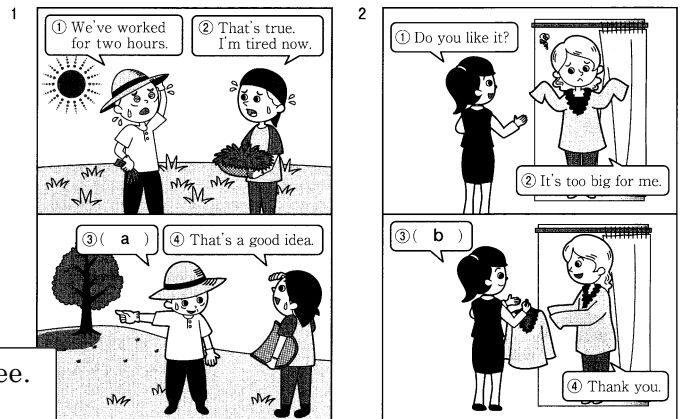
中学校の授業では、様々な言語活動を通して、自信を持って使える語彙や文法事項を定着させることも大切だが、目的や場面、状況を設定した活動を増やすことで、複数の技能を効果的に統合して活用する力の育成が強く求められる。

### 3 特徴的な問題の結果分析

#### 【第5問題】 問3

イラストに示されている場面や状況で自然な会話を成り立たせるために、どのように英語で表現するかを問う問題である。正答率はいずれも2割ほどにとどまった。3語でも解答としては認められるが、最低限必要とされる情報を満たしていない解答が目立った。教科書の表現を応用できるよう、生きて働く「知識」の習得が求められる。

問3 次の1、2のイラストについて、自然な会話になるように ( a ), ( b ) に入る適当な表現をそれぞれ3語以上の英語で書きなさい。2文以上になってもかまいません。なお、会話は①～④の順に行われています。( . , ? ! などの符号は語数に含めません。)



正解答(例) a Let's take a rest under that tree.  
b How about this smaller one?

#### 【第5問題】 問4

「朝早起きして勉強すべきか」について二人の生徒の意見を読み、自分の意見をまとめた英語で表現する問題である。昨年度までと同じ出題形式であり、話題が「朝型勉強」という身近な設定であったため、無答率は19.0%と例年より低くなり、正答した受検生と部分的な誤りをした受検生の割合の合計は45.7%になった。

問4 英語の授業で行っている話し合いの中で、トモキ (Tomoki) さんとマイ (Mai) さんが自分の意見を述べています。最後の先生の質問に対して、あなた自身の意見を英語で書きなさい。ただし、次の<条件>①～④のすべてを満たすこと。  
(\*印のついてる語句には本文のあとに<注>があります。 . , ? ! などの符号は語数に含めません。)

##### <条件>

- ① 1文目にはトモキさんとマイさんのどちらの立場に賛成かを書くこと。
- ② 賛成する理由を一つ挙げ、その理由を補足する事柄や具体例とともに書くこと。
- ③ 吹き出しの中の語句を使ってもかまわないが、自分が賛成する立場の人が述べていない内容を書くこと。
- ④ 語数は20語以上とする。

When I was a student, my homeroom teacher told me to get up earlier and study before breakfast. I tried that way, and it worked very well. Do you think junior high school students should get up early in the morning to study?



I don't think so. For example, it's good for me to study before dinner. I can \*concentrate better on studying before my family members come back home. \*Reviewing soon after the day's lesson is more \*effective. We don't have to get up early to study.



We should study early in the morning. If we study until late at night, our families will become worried about us. We should go to bed early for them.

Thank you for your opinions. Maybe there are more good and bad points. What do you think?



<注> concentrate on ~ing ~することに集中する  
review 復習する effective 効果的である

であったため、無答率は19.0%と例年より低くなり、正答した受検生と部分的な誤りをした受検生の割合の合計は45.7%になった。<条件>をすべて満たしていない等の理由から誤りとなった受検生の割合は35.3%であった。

この問題の解答にあたっては、二人の生徒がそれぞれ自分の意見を述べているため、それとは異なる理由を時間内に発想しなければならぬ。自分が賛成する立場の生徒が述べている内容をまねるだけではなく、県内で使用されている教科書の "I have two reasons. First, ... Second, ~." の形式を練習することで、別の理由を自分のことばで表現できるようにしたい。他の生徒と対話的な言語活動を行う中で、自分が発想しなかった考えを共有していくことが大切になる。また、「深い学び」の視点から、自分の考える理由を挙げて終わりではなく、それを補足する事柄や具体例を追加する活動も有効である。普段からの言語活動がさらに充実したものとなり、受検生の表現力が一層育まれることに期待したい。

正解答(例) I agree with Tomoki. I finish my homework at school. I can ask my teachers and friends after school. That works well.